

今回のおはなし



「アトピー性皮膚炎」



「かみたぼこ」「かぎたぼこ」について



# アトピー性皮膚炎

## 新薬続々 広がる治療の選択肢

かゆみを伴う湿疹に悩まされるアトピー性皮膚炎で、治療薬の選択肢が広がっています。ステロイドなどの塗り薬や飲み薬が主流でしたが、副作用の少ない内服薬や自宅で簡単に扱える注射薬が相次いで登場しました。

アトピー性皮膚炎の原因となるのが、細胞間の伝達物質でタンパク質のサイトカイン。その一種のIL4、IL13、IL31が体内で過剰に産出されると他の細胞に働きかけ、炎症、かゆみ、皮膚のバリアー（防御）機能低下の三つの症状を引き起こします。

バリアー機能が落ちると、かゆみの元となるアレルギー物質が体内に入り込みやすくなるため、さらに症状が悪化。かきむしって炎症がひどくなったr、イライラが募って不眠やうつにつながったりするなど、生活の質（QOL）に悪影響を及ぼします。

従来はステロイド薬や免疫抑制薬で炎症を抑える手法が一般的でした。2018年に保険適用になったのが、生物学的製剤「デュピルマブ」です。既存の治療で改善しない中等症以上の患者さんが対象となります。2週間に一度、腹部や腕などに皮下注射し、IL4、IL13の働きを抑えることで炎症、皮膚バリアー機能の低下を防ぎます。初回は1本300mgを2本（計600mg）、以降は、1本ずつになります。指導を受けて練習し、慣れれば自分で注射することもできます。器具は、病院でよく見かけるシリンジ型と、扱いやすいペン型から選べるのも長所です。

一方、JAK（ジャック）阻害薬というタイプの新しい飲み薬も注目されています。ここ数年で「バリシチニブ」「ウパダシチニブ」「アブロシチニブ」の3種類が保険適用になっており、これらは、IL4、IL13に加え、IL31にも有効とされています。いずれも既存の治療で改善しない中等症以上の患者さんが対象で、「ウパダシチニブ」「アブロシチニブ」は12歳から内服可能です。

これらの薬のメリットとして、ステロイドの副作用である糖尿病や高血圧などがみられない点が挙げられ、それは、サイトカインの働きをピンポイントで抑制するためです。

それでも、副作用が全くないわけではありません。「デュピルマブ」は結膜炎、JAK阻害薬はB型肝炎などの感染症に注意が必要で、服薬前に検査が必要になります。高額な薬剤でもあり、基本は塗り薬との併用になります。

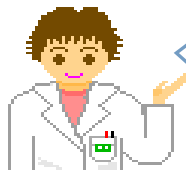
かかりつけ医を通じて、検査態勢が整った専門医を受診し、説明を聞いたうえで、自分にあった治療方針を相談してください。

# ガ・タバコ

## 「噛みたばこ」、「嗅ぎたばこ」について

「かみたばこ」、「かぎたばこ」は煙が出ない無煙たばこと呼ばれるたばこの一種です。「かぎたばこ」は鼻腔内に乾燥嗅ぎたばこを塗りつける、又は、吸い込む、もしくは口腔内で頬の内側と歯肉の間に湿性嗅ぎたばこを入れて使用します。また、「かみたばこ」は処理した葉たばこに甘味料や香料を加えて加工したたばこを頬に含んだり、噛むことにより使用します。

煙の出ない「かぎたばこ」及び「かみたばこ」にも、紙巻きたばこによる喫煙と同様に、発がん性や依存性といった健康への悪影響があり、特に、これまでの疫学研究により、口腔がん、鼻腔がん等との関連が指摘されています。



花粉症の季節が近づいてきました。

早めの対策することが大切です。

お気軽に薬剤師にご相談下さい。

### (一社) 浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金：10～15時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku\_ura\_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>